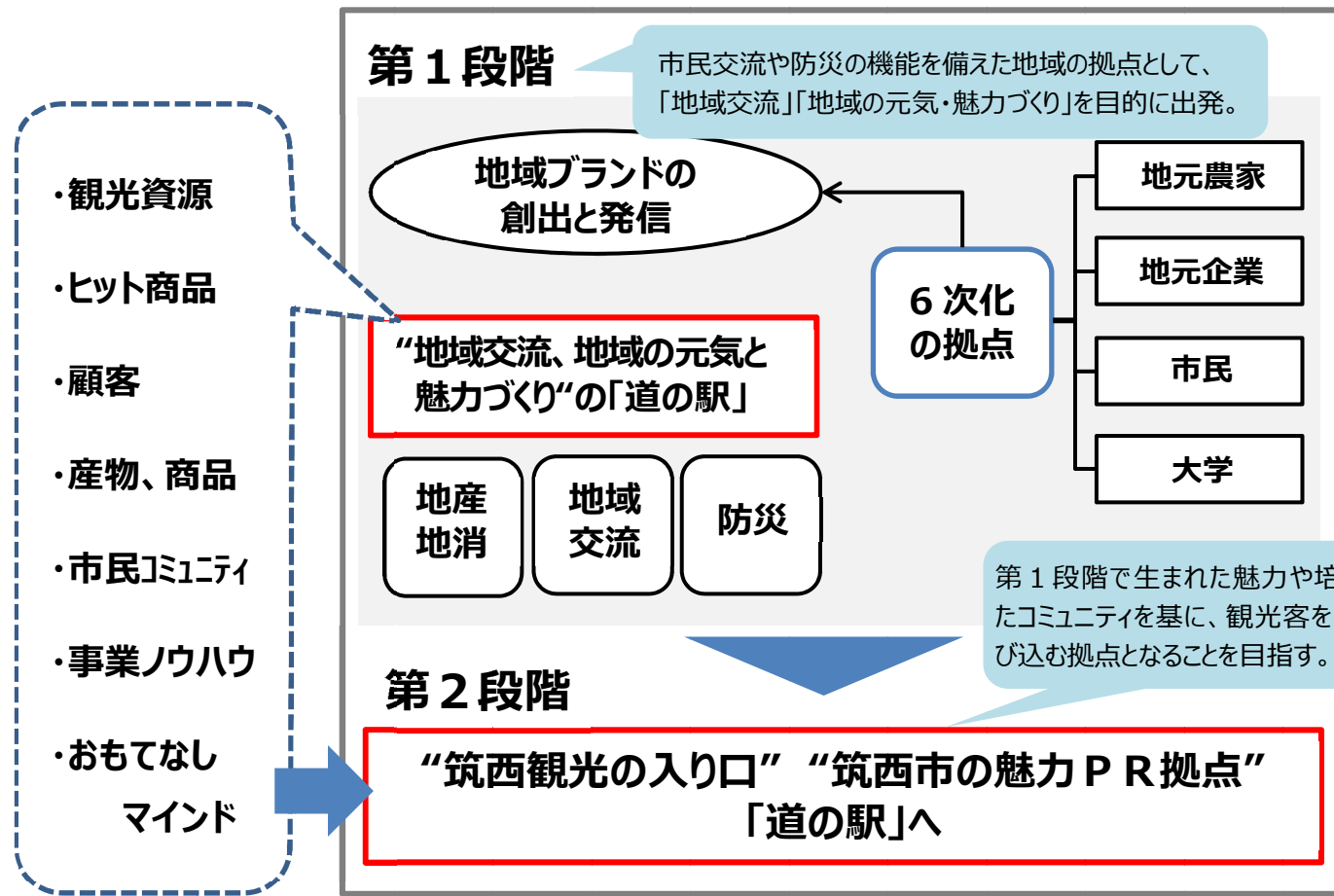


市民が育てる道の駅 ～市民が主体的に関わることで新たな「魅力」「活動」「コミュニティ」が生まれ、どんどん進化する道の駅～



市民が育てる道の駅とは・・・

- 市民が集まり
- 市民が交流し、
- 市民が考え
- 市民が実施することで、**筑西市の新たな魅力、活動、コミュニティが生まれ、**
- ★道の駅がどんどん魅力的に進化していくこと。
- ★常に主体的にかかわること。

- 市民の役割①「経営者」 **考え、実践する**
- ・おもてなしとはなにか。
  - ・お客様は何を求めているのか。
  - ・地域が元気になることはなにか。
  - ・たくさんの方が活躍するためには。
  - ・筑西市の魅力をどう伝えるか。

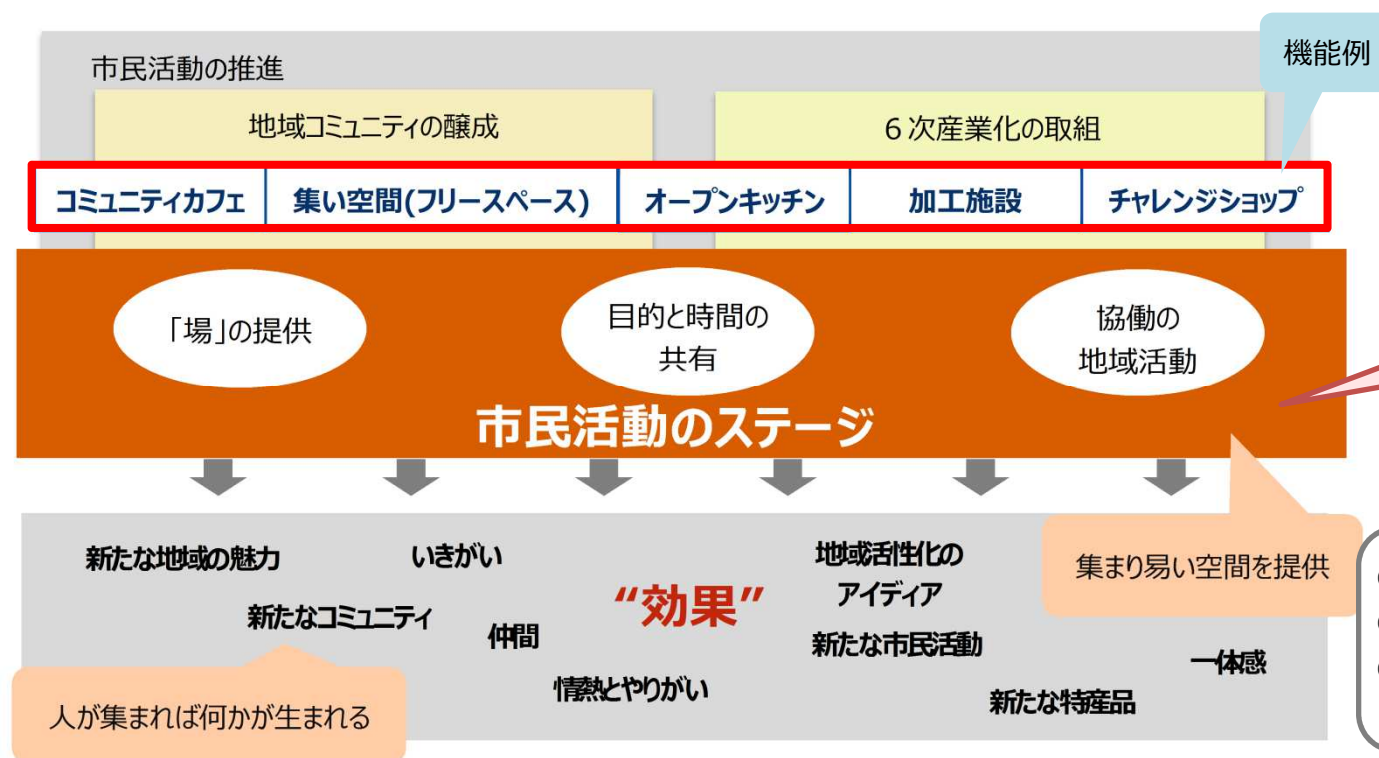
- 市民の役割②「客」 **評価し提案する**
- ・どんな機能があれば、楽しいか。
  - ・どんな施設が使いやすいか。
  - ・筑西市の「個性」は発揮されているか。
  - ・また来たくなる道の駅になっているか。

そのためには、どんな機能が必要か？

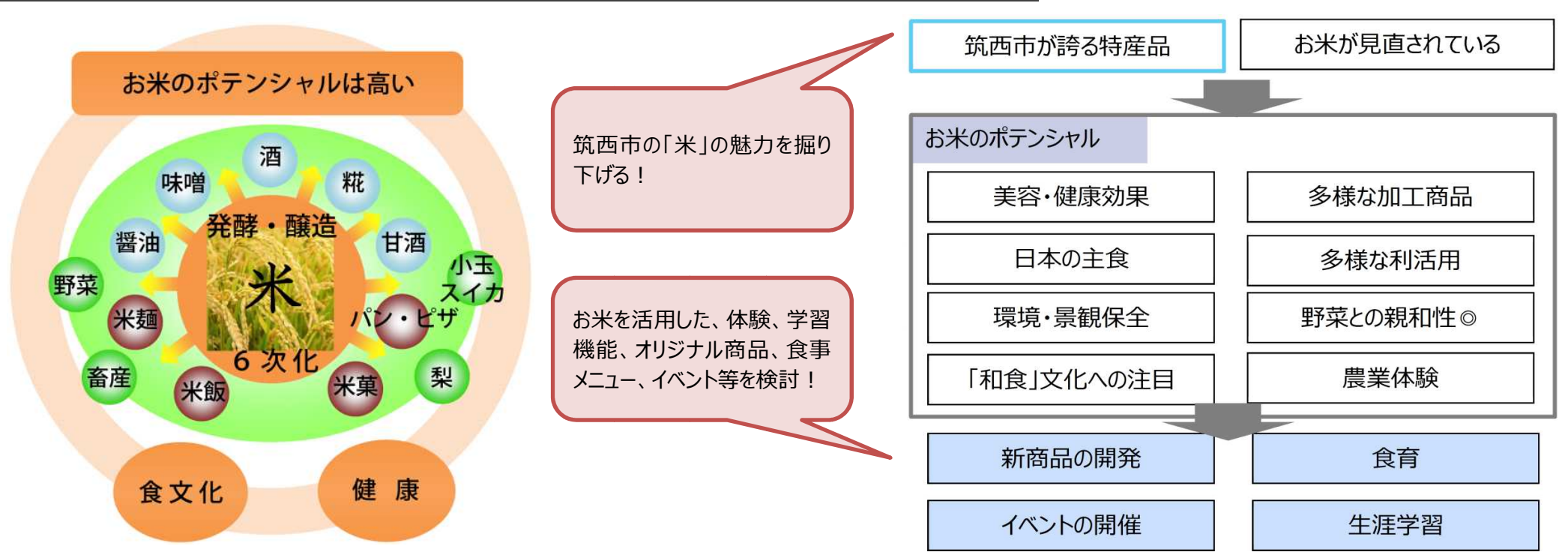
なにがあれば市民が使いやすい集まりやすい施設になるのか、「機能」を検討！

- 市民の活動をサポートする「場」
- 筑西市の「農業」「文化」を核とした発想と創出とPRの「場」
- 4地区（下館、関城、明野、協和）の中心拠点として、市民が自然とあつまる交流の「場」

市民活動のステージ ～使いやすく集まりやすい市民活動と交流の「場」～



「お米を活かした」道の駅 ～「農」の活用により、筑西の個性を創造・発信する「場」～



「防災」をまなび、意識し、いざというときに拠り所となる「場」

市内の関連部署と調整の上、筑西市「道の駅」の防災上の位置づけや役割について明らかにし、以下のような機能の付加について検討する。

市民が日常から防災を意識できるような啓蒙活動、防災学習、備蓄倉庫、災害の歴史の展示、等

滞在型・リピーター ～ずっと居たくなる、また来たくなる「場」

利用者（来訪者、市民）が滞在し、また来たくなるような機能について検討する。

遊具、体験、食事施設の充実、オリジナル商品の充実、リラックス機能、地域コミュニティ機能等